特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会 プレスリリース

平成25年4月19日

特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会 理事長 北 原 和 夫

第44回国際物理オリンピック (IPh02013) デンマーク大会 日本代表決定について

特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会 (理事長:北原和夫・東京理科大学教授) は、第44回国際物理オリンピック (期間:2013年7月7~15日 開催国/都市:デンマーク王国/コペンハーゲン) に派遣する日本代表5名を決定した。

国際物理オリンピックは、1967年にポーランドのワルシャワで第1回大会が開催された物理の国際的なコンテストで、全世界80前後の国・地域から高等教育機関就学前の若者が参加し、物理学に対する興味関心と能力を高め合うとともに、国際的な交流を通じて参加国における物理教育が一層発展することを目的として、毎年開催されている。

わが国は 2006 年、第 37 回国際物理オリンピック IPh02006 シンガポール大会に初めて日本代表 5 名を派遣し、以来毎年参加しメダルを獲得している。2012 年の第 43 回国際物理オリンピック IPh02012 エストニア大会での成績は、金メダル 2、銀メダル 3 であった。

今回日本代表となった5名は、昨年夏に岡山県で行なわれた「第8回全国物理コンテスト『物理チャレンジ2012』(応募者1318名)において優秀な成績を収めたことにより日本代表候補者として選抜され、昨秋からのインターネットを利用した「理論問題・実験データ解析演習の通信添削」、冬休みに行われた「実験実習を主体とした合宿研修」、さらに春休みに行われた「最終選考合宿」を経て決定された。

5 名は、引き続き国際大会参加に向けたトレーニングに参加し、今年 7 月の「第 44 回国際物理オリンピック (IPh02013) デンマーク大会」に備える。

なお、2014 年に開催される第 45 回国際物理オリンピックの日本代表選考を兼ねる国内コンテストとして、今年「物理チャレンジ 2013」が開催される。詳しくは、ホームページ http://www.jpho.jp 参照。

第 44 回国際物理オリ	リンピック	(IPh02013)	日本代表選手

氏 名	フリガナ	性別	学校名 (所在地)	学年
上田 研二	ウエダ ケンジ	男	洛南高等学校(京都府)	3年
榎 優一	エノキ ユウイチ	男	灘高等学校 (兵庫県)	3年
江馬 英信	エマ ヒデノブ	男	灘高等学校 (兵庫県)	3年
大森 亮	オオモリ タスク	男	灘高等学校 (兵庫県)	3年
澤岡 洋光	サワオカ ヒロミツ	男	大阪星光学院高等学校(大阪府)	3年

※ 以上5名 氏名50音順

<この件についての問い合わせ先>

特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会 事務局

担当 : 菊池

東京都新宿区神楽坂 1-3 東京理科大学 1号館 13階

TEL 03-5228-7406 FAX 03-3268-2345

E-Mail: info@jpho.jp URL:http://www.jpho.jp

日本代表のコメント

上田 研二:

物理チャレンジ自体も去年参加が初めてだったので、当時の自分だったら日本代表になったことを信じなかったでしょう。このような貴重な機会を得られるのはとても嬉しいです。本戦まで悔いが残らないよう頑張りたいと思います。

榎 優一:

またこの大会でいろいろなことを経験できるのかと思うとやはりうれしく思います。貴重な経験を十分生かせるように、大会までは準備を怠らないとともに、大会では力の限りを尽くしたいと思います。

江馬 英信:

代表に選ばれたことを大変光栄に感じています。オリンピックでは今まで学んできたことを出 し切るとともに、各国から来る学生たちとの交流や、現地での観光なども楽しみたいと思います。

大森 亮:

この度は代表に選んでいただき、とても光栄に思っております。今回の大会を通じて物理に対する興味を深め、広い世界を知りたいと思います。去年に引き続き二回目の参加ですが、今までの高校生活の集大成として精一杯頑張りたいと思います。

澤岡 洋光:

日本代表になるまでには、岡山での第2チャレンジや八王子合宿などを通して、物理の面白さに触れることができたうえ、ほかの参加者との交流を通じてたくさんの刺激を得ることができました。オリンピックでは、さらなる刺激を得ることを楽しみにしています。

「国際物理オリンピック」について

国際物理オリンピックは、1967年にポーランドのワルシャワで第1回大会が開催された物理の国際的なコンテスト。各国から高等教育機関就学前の若者が参加し、物理学に対する興味関心と能力を高め合うとともに、参加国における物理教育が国際的な交流を通じて一層発展することを目的としている。科学・技術のあらゆる分野において増大する物理学の重要性、次代を担う青少年の一般的教養としての物理学の有用性に鑑み、開催国を持ちまわりとして毎年開催されている。国際大会の参加資格は、20歳未満でかつ大学などの高等教育を受けていないこと。

各国内で選抜された最大5名の代表たちが、大学・高校教員からなる引率役員(リーダー、オブザーバ)とともに参加する。約10日間という長い会期のあいだ、選手は理論問題・実験問題にそれぞれ5時間をかけて挑戦するほか、開催国の文化に根ざした様々なイベントに参加することを通じて、他国からの参加者や主催者と国際的な交流を深めることができるように構成されている。

近年の開催国/都市は、2005 年スペイン/サラマンカ、2006 年シンガポール、2007 年イラン /イスファハン、2008 年ベトナム/ハノイ、2009 年メキシコ/メリダ、2010 年クロアチア/ザ グレブ、2011 年タイ/バンコク、2012 年エストニア/タリン。

我が国は 2006 年の初参加より毎年代表を派遣し、メダルを獲得している。これまで 7 回の参加において、金メダル 1 O 名、銀メダル 1 1 名、銅メダル 1 O 名、入賞 4 名という成績をおさめている。

<今回の大会>

●「第 44 回国際物理オリンピック (IPh02013)」

会 期: 2013年7月7日~7月15日

開催国/都市: デンマーク王国 / コペンハーゲン

<前回の大会>

●「第 43 回国際物理オリンピック(IPh02012)」

会 期: 2012年7月15日~7月24日 10日間

開催国/都市: エストニア共和国 / タリン市 参加国数/参加者数: 81 カ国・地域 / 378 名 日本代表の成果: 金メダル 2 名 銀メダル 3 名

特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会について

国際物理オリンピックに派遣する日本代表を選抜・訓練し、国際大会に派遣する事業は、日本物理学会、応用物理学会、日本物理教育学会、日本生物物理学会の会員有志が 2006 年に結成した任意団体「物理チャレンジ・オリンピック日本委員会」が、公益財団法人日本科学技術振興財団の協力のもとに科学技術振興機構を通じて国の支援を得て実施してきたが、今後永続的にこの事業を実施するためには主体となる法人を設立することが必要と判断し、2010 年 11 月に特定非営利活動法人物理オリンピック日本委員会の設立認証を申請、2011 年 3 月 11 日付で認証され同 23 日に登記を終了した。

当法人は言うまでもなく「物理チャレンジ・オリンピック日本委員会」の事業を継承するものであるが、その事業の意義は国際物理オリンピックに日本代表を派遣することに留まらず、その選抜の過程において我が国の高校生・中学生の間に広く物理に対する興味・関心を喚起するとともに、学校教育における物理教育の質的向上を促すことを期待している。